



「ふるさとを愛し 思いやりの心をもち 目標に向かって粘り強く努力する子ども」を目指して

創立150周年

花巻市立新堀小学校 学校報 令和6年度NO.14 令和7年2月7日 文責：小山

新小だより

スキーが大好き～になりました

1月29日（水）に鉛温泉スキー場で、4・5・6年生（在籍数33名）のスキー教室を実施いたしました。昨年度は、ほぼアイスバーンのゲレンデコンディションで、冷や冷やドキドキでしたが、今年は凍っている斜面もなく雪もたっぷりで、存分にスキーを楽しむことができました。

今回のスキー教室でも、例年お世話になっている花巻ブルークボーゲンアカデミー並びに新堀体育協会の方々19名にご指導をいただきました。本校でスキー教室を始めたのは、今からちょうど30年前の平成7年2月でした。花巻ブルークボーゲンアカデミーの方々には、第1回スキー教室の時から30年間お世話になっております。中には、毎年欠かさず指導に来てくださっている方も数名おられます。様々な事情で県内・市内各校で、スキー教室が取り止めになる中で、こうしてスキー教室を続けることができ、安全に配慮しながら熱心に指導していただいていることを大変ありがたく思っております。4年生の児童の中には、スキー場のゲレンデで滑るのは初めてという子も何人かおりましたが、それらの子も含め、全員がリフトに乗り、それぞれのスキーの技術を高めることができました。子どもたちの素直に指導を受ける姿、何度転倒してもくじけずにチャレンジする姿、高学年の颯爽と滑り降りて来る姿、終わった後の達成感に満ちた表情等・・・印象的な場面が多数ありました。そして、心も体も鍛えられ、たった1日でも成長することができ、みんな「スキーが大好き～」になって帰って来ました。指導して下さった方々からは、「新堀の子どもたちは、素直に話を聞いてくれる。」「みんな最後までよくがんばった。」「子どもたちのがんばりに感動した。」など、称賛のお言葉をたくさんいただきました。

ご指導して下さった花巻ブルークボーゲンアカデミー並びに新堀体育協会の皆様と、スキーの用具やお弁当等を準備して下さった保護者の皆様に心より感謝申し上げます。



【スキー教室でご指導して下さった方々】

◇藤原俊幸さん
◇佐藤貴秀さん
◇似内謙光さん
◇菊池隆和さん
◇井形隆蔵さん

◇高橋健一さん
◇福山智則さん
◇森山和寛さん
◇鎌田節子さん
◇菅原 猛さん

◇中村 修さん
◇佐藤千鶴子さん
◇高間館和仁さん
◇佐藤周司さん
◇佐々木秀夫さん

◇藤原晋也さん
◇佐々木成美さん
◇高橋安子さん
◇佐々木司志さん

創立150周年特別記念事業

「小学生のためのいのちの授業～親子で学ぶゲーム障害・ネット依存症防止～」

2月3日(月)に、創立150周年特別記念事業として、「児童・保護者・教職員を対象に、専門家よりSNSやネットゲーム等についての講話を聴き、問題点の理解を深め、自らの生活を振り返るきっかけとする。」ことをねらいに掲げ、未来の風せいわ病院理事長智田文徳先生に講師を依頼し、オンラインでの授業と講演を実施いたしました。テーマは「小学生のためのいのちの授業～親子で学ぶゲーム障害・ネット依存症防止～」で、3～6年生の児童と教職員、全学年の保護者を対象として行いました。

当日は、15名の保護者の方々が来校してくださりました。智田先生の長年の研究や事実に基づいた貴重なお話に、子どもたち、教職員、保護者の方々全員が、真剣に耳を傾けていました。また、グループの話し合いでは、子どもたちも保護者の方々も、自分事として積極的に意見を述べていました。ゲーム障害やネット依存症は社会的にも問題になっていて、「自分の子も心配」と思っている保護者の方も少なからずいると思われます。学校としては、智田先生から教えていただくことを様々な教育活動に生かし、ゲーム障害やネット依存症の防止に努めて参ります。ご家庭でも、家族で話し合っゲームやスマホの利用のルールを見直したり、依存症にならないための取組を考えたりしていただければと存じます。



～智田先生が子どもたちにお話して下さったこと～

- 「好き」でやりすぎていても、注意されてやめられるのなら「健康」です。やめたくてもやめられないのが「依存」です。「依存」は病気で、病院で治さなければなりません。
- ゲームをつくっている人たちは、みんながお金をいっぱい使って長い時間遊んでくれると嬉しいのです。つまり、みんながゲーム依存になるように考えてゲームをつくっているのです。
- 頭の中には、本能と理性(心のブレーキ)の脳があります。理性ができあがるのは、みんなが、20才になったことです。
- 病気(依存)にならないために、みんなの頭の中にネット・ゲーム以外のことを増やしましょう。
- ひとりぼっちの人は病気(依存)になりやすい。周りにひとりぼっちで悩んでいる人がいたら、その人の気持ちを分かろうとすること、安心して話ができるようにはたらきかけることが大切。

～智田先生が保護者の方々にお話して下さったこと～

- 私たち(大人)自身のことも振り返りましょう。ゲームやスマホを買う時に家庭でルールを決めていると思います。また、約束を守れなかった時のルールも決めていると思います。それがちゃんと守れていますか？今日のことをきっかけに約束について改めて考え直してみましょう。
- 子どもが幸せな人生を送ることができるよう、自分の気持ちを安心して伝えられるような関係をつくりましょう。理性(心のブレーキ)ができあがっていない子どもにとってブレーキに代わるのは親です。今、親が楽をしてしまったら、後で大変なことになってしまいます。だめなものはだめと言って聞かせましょう。

【保護者の感想】※一部の表記を訂正・抜粋して掲載させていただきました

- ◇ 我が子にも当てはまるテーマだったので今回参加させていただきましたが、子どもだけでなく、私も一緒に聞くことができてよかったです。
子どもが一つのことだけに夢中になりすぎてしまわないように、一緒に他の興味のあるものを増やしていきたいと思いましたし、親子でもう一度ルールを振り返り、子どもたちだけでなく、大人もきちんと守らなければならないと勉強になりました。ありがとうございました。
 - ◇ 我が子ももれなくYoutubeやゲームなど毎日かかさず触れています。一度依存症になるとなかなか治らないというお話でしたので、依存症になる前にこの講演を拝聴することができてよかったと思いました。理性ができあがるのは25才・・・という内容も正直びっくりでした。その頃までにしっかりと理性が育つように親としてちゃんと子どもと向き合い、関わり理解していけたら・・・と思いました。とても大事な「子育て」のお話を聴くことができ、勉強になりました。親子でメディアコントロールのルールの確認をさっそく行いたいです。
 - ◇ ゲームやネットに限らず、やはり「我慢」はすごく大事だと納得させられるお話でした。たぶん学校では完成途中の理性をそれなりにはたらかせているのだと思うのですが、家でとなると、そのブレーキも弱くなってしまいます。日頃から子どもには我慢が足りないと思っていて、家でも「そこは我慢するところだよ」と声をかけてきました。ですが、楽な方に流されてしまい、親のこちらが折れてしまったり、妥協してしまったりすることが多いです。今回のお話を聞いて、理性ができあがる前だからこそ、今は「我慢をする」ということを身に付けさせたいと強く思いました。とても親しみやすくお話を下さり、何度も頷きながら聞かせていただきました。何か解けなかった問題の扉が開けたようなスッキリ？爽快な気持ちになりました。前半の児童向けのお話も、大人にもとても響きました。
- ※智田先生は、子どもたちには「理性ができあがるのは20才」と話をしていました。保護者の方々に「しっかりとした」という意味合いを含めて「理性ができあがるのは25才」と話されていました。